

解剖実習事前学習における献体に関するビデオ教材の評価

(看護学 / 解剖実習 / ビデオ教材)

鈴木真貴子*・高田晃平**

Evaluation of Audiovisual Aids for Donor Bodies in Pre-Learning of Practical Human Morphology Training

(nursing / human morphology / audiovisual aids)

Makiko SUZUKI* and Kohei TAKATA**

At Shimane University School of Nursing, a unique method of practical training is conducted to provide a better understanding of the structure and function of human body. For our students to gain a better understanding of what should be learned on donor bodies, we prepared audiovisual aids for pre-learning of practical human morphology training. Herein, we report the results of a study revealing what students learned from these aids. The subjects included 60 new School of Nursing students, none of whom had any experience in practical learning about human morphology. A questionnaire survey was conducted and 57 (95%) out of 60 subjects answered. The survey results revealed that most of the subjects had feelings such as "fear" and "discomfort". After the audiovisual aids were seen, 60% answered that their feelings regarding practical human morphology training had improved. The audiovisual aids provided the students with a better understanding of the system of body donation and respect for the dignity of the donors as well as a great appreciation for their donations. Thus, the students successfully established an appropriate mental attitude toward practical human morphology training. In the future, we intend to discuss attendance at incineration ceremony, as part of post-learning, in addition to the pre-learning using these audiovisual aids.

島根大学医学部看護学科では、人体の構造や機能を学生により深く理解させるために独自の解剖実習を行っている。今回、解剖実習の事前学習として、ご遺体から学ぶことについて理解を深める目的で、献体に関するビデオ教材を作成した。本教材から学生がどのような学びを得たのかを明らかにする目的で調査を行ったので報告する。対象者は解剖実習を行う前の看護学科1年次学生60名であり、57名(95%)から回答を得た。調査の結果、解剖実習に対して多くの学生が「怖い」「不安」といったイメージを持っていた。このビデオ教材を用いたところ約6割の学生が解剖実習に対するイメージが変わったと答えた。ビデオ教材から献体のシステムを理解し、感謝の気持ちを持つようになり、実習への心構えにつながっていた。今後はこのビデオ教材における事前学習とともに、事後学習として納骨式への参列も検討したい。

I. 緒言

島根大学医学部看護学科では、「人体の構造と機能」を「形態と機能」と題して1年次と2年次に実施し、計4単位の必修科目としている。その科目の中で、人体の構造や機能についての理解を深めるために、看護

学科独自の骨学実習や解剖実習を取り入れている¹⁾。

これまで解剖実習に臨む学生が看護学教育の基礎として解剖実習が重要であることを理解し、献体してくださる方々への感謝の気持ちを持てるよう、献体から学ぶことの意味および重要性について口頭で教授してきた。また、解剖実習終了後の2年次には解剖体慰霊祭に参列し、それ以降の学年では慰霊祭の日に記帳を行うこととしてきた。

今回、解剖実習前に解剖実習に対する理解を深め、ご遺体から学ぶことについて考えてもらう目的で、「看護学科における解剖実習を行うにあたって」というビデオ教材を作成した。本教材から学生がどのよう

*元島根大学医学部臨床看護学講座

Former member of, Department of Clinical Nursing, Faculty of Medicine, Shimane University

**島根大学医学部臨床看護学講座

Department of Clinical Nursing, Faculty of Medicine, Shimane University

な学びを得ることができたのかを明らかにする目的で調査を行ったので報告する。

II. ビデオ教材の構成

このビデオ教材は、約15分間で はじめに 献体について 解剖体慰霊祭の様子 納骨式の様子 まとめ、という構成である。具体的な内容としては、まず、看護学において健康維持・増進にかかわるため、そして疾病や障害のある方の生活を支えるために、解剖学を学ぶ必要があることをはじめに説明した。そして実習で出会うご遺体は生前から「自分の死後、遺体を医学の教育と研究に役立てたい」という志を持っていた方々であることを示した。これらの献体は無条件・無報酬で行われ、島根大学には献体登録をされた方々で組織されている篤志団体（有終会）があり、その総会の様子を写した写真を盛り込んだ。また、毎年行われている解剖体慰霊祭での黙祷、学生から感謝の言葉、献花の様子、参列できない学生が行う記帳と焼香および慰霊碑へのお参りは、わかりやすいように一連の流れに沿って写真を提示した。解剖体慰霊祭の後、寺の境内にある島根大学医学部納骨塔に医学科学生の手で納骨される様子も入れた。まとめでは、人体の構造を学ぶ解剖学が基礎学問として大切であることを繰り返し説明し、この解剖実習を支えてくださる多くの方々の気持ちを受け止めて真摯に取り組むよう話した。

III. 研究方法

1. 対象

調査対象は解剖実習前の看護学科1年次学生60名である。

2. 調査期間

平成19年12月。

3. 調査の方法と内容

解剖実習に向けて行われる事前学習の授業（人体構造の概略についての講義）の中でビデオ教材「看護学科における解剖実習を行うにあたって」を視聴させた。この視聴はご遺体から学ぶことについて考えてもらう目的で行っているため、全員に視聴させた。その後、自記式質問紙を用い留め置き法で調査を行った。調査内容は遺体に接した経験の有無、解剖実習に対するイメージおよびビデオからの学習内容を自由記載で求めた。

4. 分析方法

自由記載については、その内容を記録単位に分け、意味内容の類似したものをまとめて一つのカテゴリと

した²⁾。記録単位とは、記述内容を繰り返し読み、質問に対する回答として意味の通る最小単位に分けたものである。記録単位とカテゴリは、研究者がそれぞれ分類したものを持ち合い、意見が異なる点について検討し決定した。

5. 倫理的配慮

実施にあたり、研究の目的、調査用紙提出の有無や記載内容は学業成績とは無関係であること、ならびに回答は無記名で提出することとし、提出することによって本調査の対象者となることの同意を得たものとするを伝え協力を依頼した。なお本調査は平成19年11月20日島根大学医学部看護研究倫理委員会の承諾を得た。

IV. 結果

60名中57名から回答を得た（回答率95%）。これまでに遺体に接した経験があるものは57名中42名（73.7%）であった。『解剖実習に対してどのようなイメージがありますか？』という質問に対して57名中51名が自由記載で回答し、記述内容は61の記録単位に分けることができた。これらは【貴重】【怖い】【不安】【厳格】の4つに大別することができた（表1）。【貴重】の具体的な記載内容としては「看護学の発展に欠かすことができないもの」「人体の構造を理解できる貴重な時間」などであった。【怖い】の具体的な記載内容としては、「怖い」「漠然とした恐怖感がある」「実物を見るのが怖い」などであった。【不安】は「気持ち悪くなりそう」「解剖実習の雰囲気かわからなくて不安」、【厳格】は「態度が厳格であるべきもの」と記載されていた。

ビデオ教材は57名全員が「わかりやすかった」と答えた。また、『ビデオ教材を視聴して、解剖実習に対するイメージに変化がありましたか？』という質問に対しては、「変化あり」35名（61.4%）、「変化なし」21名（36.8%）、無回答1名（1.8%）であった（図1）。「変

表1 解剖実習に対するイメージ

カテゴリ	具体的な記載内容
貴重 (24)	<ul style="list-style-type: none"> 看護学の発展に欠かすことができないもの 人体の構造を理解できる貴重な時間 先輩方の話を聞く限り、貴重な体験と思う
怖い (21)	<ul style="list-style-type: none"> 怖い 漠然とした恐怖感がある 実物を見るのが怖い
不安 (14)	<ul style="list-style-type: none"> 気持ち悪くなりそう 解剖実習の雰囲気がわからなくて不安
厳格 (2)	<ul style="list-style-type: none"> 態度が厳格であるべきもの

() は記録単位数

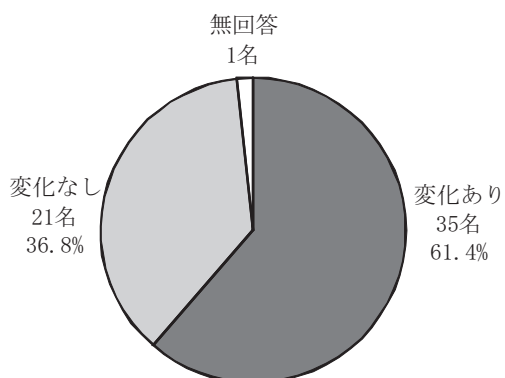


図1 解剖実習に対するイメージ変化の有無 n = 57

化あり」と答えた学生に、具体的に变化した内容を記載してもらった結果、32名の学生が記載し、記載内容は【重み】と【ありがたさ】の2つに分けられた(表2)。「重み」は、「お骨の帰りを待っているご家族がいる」「思っていた以上に多くの方の思いが込められていた」と記載されていた。【ありがたさ】は「我慢して行うのではなく、感謝しながら解剖実習をさせてもらう」「ご遺体を提供して下さる方だけでなく、ご家族にも感謝して実習に臨む」などと記載されていた。

ビデオ教材から学んだ内容を自由記載で求めた結果、【献体のシステム】【感謝の気持ち】【実習への心構え】の3つに大別することができた(表3)。「献体のシステム」の具体的な記載内容は「献体とは無条件・無報酬であること」「慰霊祭が大規模に行われていることを知った」などであり、【感謝の気持ち】では「ご遺体とご遺族に感謝して実習に臨まなければなら

ない」「感謝の気持ちを忘れてはならない」と記載されていた。【実習への心構え】では、「実習に対する心構えができた」「謙虚な気持ちをもって臨まなければいけないと思った」などであった。

V. 考 察

厚生労働省による平成18年人口動態調査結果によると、年々施設内での死亡者数割合が増え、今回の調査対象である学生が生まれた頃の1980年代後半は施設内死亡者数割合は7割を超え、1980年代半ばには8割を超えていた。このように多くの方が施設内で死亡するという事は、昔に比べて自宅で亡くなる人が少なく、人の死そしてその遺体に接する機会が少ないと考えられた。しかし、今回の調査結果では、関りの程度は不明だが約7割の学生が遺体に接した経験があると答えた。一方解剖実習に対するイメージでは【貴重】というプラスイメージよりも【怖い】【不安】といったイメージが多く記載された。この恐怖や不安の具体的な内容は、「漠然とした恐怖感」「遺体に向き合えるか不安」などであり、遺体に接した経験の有無によって大きな差はなかった。ビデオ教材を視聴させた結果、約6割の学生が解剖実習に対するイメージに変化があったと答え、多くの方の思いが込められているという【重み】とご遺体と家族への【ありがたさ】について考えることができていた。このビデオ教材を視聴することで、生命の尊さや家族の存在について考えられており、

表2 ビデオ教材を視聴して変化したイメージ

カテゴリ	具体的な記載内容
重み (23)	・お骨の帰りを待っているご家族がいる
	・思っていた以上に多くの方の思いが込められていた
	・命の尊さを改めて実感した
ありがたさ (20)	・我慢して行うのではなく、感謝しながら解剖実習をさせてもらう
	・ご遺体を提供して下さる方だけでなく、ご家族にも感謝して実習に臨む

() は記録単位数

表3 ビデオ教材から学んだ内容

カテゴリ	具体的な記載内容
献体のシステム (41)	・献体とは無条件・無報酬であること
	・慰霊祭が大規模に行われていることを知った
感謝の気持ち (25)	・ご遺体とご遺族に感謝して実習に臨まなければならない
	・感謝の気持ちを忘れてはならない
実習への心構え (19)	・実習に対する心構えができた
	・謙虚な気持ちを持って臨まなければいけないと思った

() は記録単位数

解剖実習前の学習として有用であると示唆された。解剖実習には、教育研究上の必要性に加えて人生の生と死を考えられるという重要な役割があり、医学のために自ら献体すると決意された個人の遺志を知る時、学生は自己の使命を学ぶことができる³⁾といわれている。そのため、解剖実習が献体される方とその家族など多くの人の尊い志によって支えられていることを教授することは、医療者としての役割を考える上で、重要な教育である。他大学の取り組みでは、解剖実習の見学に対する動機付けを高めることと献体に関する知識を深める目的で事前学習を行っている³⁾。その学習において解剖にかかわる法制度の説明と実習上の注意を教授し、遺体の火葬に参列させ、さらにご遺族との懇談の場を設けることによって新たな刺激を受けていると報告されている⁴⁾。今回のビデオ教材では、自分たちが解剖実習できるのは医学の発展のために献体しようという意思を持った方が篤志団体（有終会）を組織し、無条件・無報酬でご遺体を提供した後、実習後に火葬され、希望によって島根大学医学部納骨塔に納骨されるという流れを、実際の写真を盛り込んで見せた。この看護学科独自で作成したビデオ教材を用いたところ、献体のシステムに対する理解が深まり、それによって多くの学生が感謝の気持ちを持ち実習への心構えにつながっていた。現在、島根大学医学部看護学科学生は解剖体慰霊祭のみに参列し、納骨式には医学科学生のみが参列している。しかし、今後はさらに多くの学びを得るために、医学科学生と一緒に納骨式に参列し、篤志団体の方々やご家族、ご遺族とお話できる機会が持てるよう検討していきたい。これら一連の教育は医学科と看護学科が併設し、解剖学教室の協力、指導が得られる島根大学医学部において可能であり、解剖実習後にご遺体やご家族に改めて感謝し、自分たちの看護職者としての役割について考えてみる貴重な経験となることが期待できる。

VI. 結 語

1. 解剖実習に対するイメージは【怖い】【不安】といった内容が多かった。しかし、ビデオ教材を視聴させた結果【重み】および【ありがたさ】について考えることができおり、解剖実習前の学習として有用であった。
2. この看護学科独自で作成したビデオ教材を用いたところ、献体のシステムに対する理解が深まり、それによって多くの学生が感謝の気持ちを持ち実習への心構えにつながっていた。
3. 今後は看護職者としての役割について考える貴重な経験として、医学科学生と一緒に納骨式に参列し、篤志団体の方々やご家族、ご遺族とお話できる機会が持てるよう検討していきたい。

文 献

- 1) 鈴木真貴子, 高田晃平: 島根大学医学部看護学科における解剖実習の実際と課題, 島根大学医学部紀要, 30: 17-22, 2007.
- 2) 舟島なをみ: 質的研究への挑戦. 第2版, 医学書院, 東京, 40-45, 2007.
- 3) 小林邦彦: 医療技術者養成における人体解剖実習の重要性とその条件整備への提言 - 医療技術者教育にルネッサンスを -, 解剖学雑誌, 73: 275-280, 1998.
- 4) 松野義晴, 小宮山正敏, 門田朋子他: 千葉大学におけるコメディカル学生の解剖実習見学に対する意識調査, 解剖学雑誌, 77: 77-80, 2002.

(受付 2008年9月12日)